

「所内ビンゴ研修」プログラム

国立江田島青少年交流の家

1 活動内容

グループで協力しながら、ビンゴシートにあるものを交流の家施設マップのポイントを回りながら探し出し、得点を競う。

2 活動のねらい

グループで活動し、協調性を養う。
やり遂げた達成感を味わう。

3 研修対象者

小学生以上

4 研修人数

最大200人

5 実施時期、研修時間、研修場所等

(1) 実施時期…通年

(2) 研修時間…午前 9時00分～12時00分

午後13時30分～16時00分

活動時間…1時間～1時間30分

(3) 研修場所…管理研修棟・宿泊棟・グラウンドなど

スタート場所…体育館・研修室・ピロティニーなどどこでも可能

(4) 1グループの最適人数…4～6人

7 準備物

(1) 個人：運動に適した服装、筆記用具、かさ・カッパ（雨天の場合）

(2) 団体：携帯電話

(3) 交流の家：交流の家施設マップ（グループ数）、ビンゴシート（グループ数）、
ビブス（グループ数）、ビンゴの解答（1枚）、ビンゴ解答用紙（グループ数）

・バインダー（グループ数+指導者用）、 *トランシーバー…団体が必要な場合

8 指導・安全管理

(1) 指導者の配置・人数・役割分担

研修は、「所内ビンゴ研修」プログラムをもとに、団体が所内ビンゴの指導・安全管理等を行う。

(2) 引率者の配置・人数・役割分担

活動団体で次の役割を持たせる。

①総括責任者(全体の総括、緊急時の連絡担当)…1名

②指導担当者(指導、用具の準備、安全管理)…1名

③監視担当者※2(要所での安全管理)…3名

・管理研修棟(1名)・グラウンド(1名)・第1野外炊事場(1名)

④救護担当者(健康観察・応急処置)…1名

※1 家族等、小集団で引率者が各グループに入り回る場合は、引率者が①②④の役割を兼ね、③をおかなくてもよい。

※2 監視担当者は、総括責任者・指導担当者・救護担当者が兼ねてもよい。

(3) 事故発生時の措置

- ①総括責任者:事故の状況を把握し、交流の家に携帯電話等で連絡を行う。
 - ②指導担当者:事故者を除いた研修生をスタート場所に集合させ、人数、名前を確認する。
 - ③監視担当者:救助に向かい、事故者を安全な場所に避難させる。
 - ④救護担当者:救助に向うとともに、応急処置を行う。
- ※ 引率者同士は、トランシーバーを使って連絡を取り合う。つながりにくい場合は、個人の携帯電話を使用する。

(4) 注意事項

途中で雷鳴がしたら、活動を中止して屋内に集め、屋内のポイントだけを探すように指示する。屋内のポイントの答えは教える。(解答の赤字が屋外のポイント。)

9 展開

(1) 「物品利用希望書」の提出

必要事項を記入し、総括責任者が当日までに交流の家へ提出する。

(2) 借用物品受け渡し

(指導担当者)

物品利用希望書の確認をし、「所内ビンゴ研修」プログラムを基に、研修に必要な物品の受け渡しや実施方法等の打ち合わせをする。

(3) 実施前

(指導担当者)

交流の家から必要な物品を受け取る。

(4) 事前指導

(指導担当者)

- ① ねらいを確認する。
- ②各班にビンゴシート、解答用紙(バインダーにはさむ)、施設マップ、ビブスを配る。
- ③ルールを説明する。
 - ア ビンゴシートに掲載している写真に写っているものと同じものがあるポイントを探し、そのポイント番号を解答用紙のビンゴシートと同じマスに書く。
 - イ 正解すると1マス毎に10点獲得する。
 - ウ ビンゴと同じで1列全て正解だとボーナスポイントとして20点獲得する。
 - エ 合計得点で順位を競う。
- ④団体に決めた制限時間(1時間~1時間30分)を伝える。
- ⑤ビンゴシートにある約束と注意事項を読みながら、その内容を確認する。
ビンゴをする時の注意をする。

(5) 研修の実際

(指導担当者)

- ・グループでどこから回るか相談させる。
- ・回るポイントが決まったグループからスタートさせる。

(監視担当者)

- ・監視する場所に携帯電話(トランシーバー)を持って移動する。

(6) 事後指導

(指導担当者)

- ・答え合わせをし、順位を発表する。
- ・まとめ(ねらいに対してふりかえりをさせたり、講評したりする)をし、解散する。
- ・研修終了を事務室に報告するとともに、借用物品の返却をする。